

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況（連結）

平成 16 年 1 月 30 日

上場会社名 株式会社 極洋
(URL <http://www.kyokuyo.co.jp/>)

(コード番号: 1301 東証第 1 部)

代表者 役職名 代表取締役社長 氏名 二村 雄三
問合せ先責任者 役職名 企画部長
氏名 石井 康広 (TEL: 03 - 5545 - 0703)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

売上高の会計処理の方法の最近連結会計年度における認識の方法との相違の有無 : 無

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期業績の概況（平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日）

(1) 売上高及び経常利益

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	経常利益
	百万円	百万円
16 年 3 月期第 3 四半期	118,976	2,404
15 年 3 月期第 3 四半期		
(参考) 15 年 3 月期	162,773	3,314

(注) 四半期業績の開示は当期より実施しておりますので、前年同四半期実績については記載しておりません。

水産商事部門は、最需要期である年末においても水産物全般にわたり数量・価格共回復は見られず、特にカニ、南北凍魚など主要商材の荷動きが低迷しました。そのため海外生産品の取扱いを増やし、利益の確保に努めましたが、売上高、利益とも予想を下回っております。

加工食品部門は、主要製品の価格競争の激化、季節商材の販売が遅れたことなど厳しい販売環境のなか調理品、切身商材、寿司種商材などの海外加工品をはじめ、くじら、いわしなどの魚介缶の販売に注力することで、売上高は予想通り、また利益は予想を上回って推移しております。

漁撈部門は、低調な漁獲が続いておりましたまき網操業が、12 月から漁獲、魚価ともに上向いてきておりますが、第 2 四半期までの売上高、利益の落ち込みを回復するには至っておりません。

物流サービス及びその他の部門は、概ね当初予想通りであります。

(2) 当該四半期において企業集団の財政状態及び経営成績に重要な影響を与えた事象

当社及び連結子会社は、確定拠出年金法の施行に伴い、平成 15 年 10 月に退職一時金制度の一部について確定拠出年金制度へ移行し、「退職給付制度間の移行等に関する会計処理」(企業会計基準適用指針第 1 号)を適用しました。これに伴う当期の損益への影響額は、経常利益で 24 百万円(利益の増加)、特別損失で 359 百万円(利益の減少)であり、純額で 335 百万円(費用の増加)となっております。

3. 平成 16 年 3 月期の連結業績予想（平成 15 年 4 月 1 日 ～ 平成 16 年 3 月 31 日）

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	155,000	3,000	1,300

（参考）1 株当たり予想当期純利益（通期） 11 円 78 銭

（参考）平成 16 年 3 月期の個別業績予想（平成 15 年 4 月 1 日 ～ 平成 16 年 3 月 31 日）

（注）記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円
通 期	136,000	2,500	1,100

（参考）1 株当たり予想当期純利益（通期） 9 円 96 銭

水産商事事業における荷動き及び市況の低迷による売上高減少に加え、漁撈事業におけるかつお漁獲並びに魚価回復の遅れの影響により、連結業績予想は前回発表数値に比べ売上高、利益とも減少する見込みであります。

また、個別業績予想につきましては、売上高は減少するものの、利益についてはほぼ予想通りの見込みであります。

上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上